



地域と医療を結ぶ広報誌

風によせて

Shirakawa Kosei General Hospital

VOL.

69

2024.1

KAZENI
YOSETE



CONTENTS

- 病院長挨拶 2
- 医療連携 3
- PET-CT 啓蒙活動 3
- 特集 4
- 在宅診療について 5
- 健康減塩メニュー・医療安全推進週間 6
- 令和5年度 継灯式 7
- 第15回白河厚生総合病院解剖慰霊祭 7
- 医療安全・個人情報保護研修会 7
- 院内感染対策研修会 7
- 看護部文化祭 8
- アウトオブキッズ in しらかわ 2023 8

特集

生活を楽にする道具“自助具”のご紹介



JA福島厚生連
白河厚生総合病院





ごあいさつ salutation



病院長
農村健診センター所長
大木 進司



今月の表紙 Cover Story

【春を待つ】

福寿草はまだ寒い時期に花を咲かせます。花の中は、太陽の光を集めて外気温より暖かく花粉を運んでくれる虫たちは、その暖かさに誘われてやってきます。人もその咲いている姿をみるだけで心が暖められるような気がします。

新年のご挨拶

皆さま、令和6年のスタートにあたり一言ご挨拶を申し上げます。
まずは令和6年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」および1月2日に発生した「羽田航空機衝突事故」により犠牲となられた方々に心よりお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。
能登半島地震においては当院からも要請に従いDMATの派遣を行いました。現地では過酷な状況の中、任務を全うしてくれた隊員の皆さんに心より感謝の意を表するとともに、今も避難生活をおくられている住民の皆様のご健康と、非常事態が一刻も早く終息することをお祈り申し上げます。

さて2023年は皆さんにとってどんな年でしたか？良いニュースとしては3月にWBCが開催され日本が14年ぶり3度目の優勝を飾りました。5月には新型コロナウイルス感染症が5類となりさまざまな制約が緩和され、日常を取り戻したとを感じる人は多かったのではないのでしょうか？2024年も良いニュースがあふれる日本であってほしいと願うばかりです。

さて2024年福島県ひいては県南地域の医療はたくさんの課題を抱えています。4月から医師の働き方改革が施行され、診療報酬と介護報酬の同時改定が行われますが、明るい未来ばかりではありません。医療業界の抱える様々な課題の中で最も深刻なのが人手不足です。人手不足の原因は、少子高齢化による労働力の減少や、育児や介護によるキャリアの中断などといわれています。人手不足が慢性的に続くと、医師や看護師1人当たりの負担が増えて過重労働になり、退職者の増加につながる恐れがあります。人材不足による労働環境の悪化を防ぐためにも、できるだけ早い人材確保が必要ですが、国立社会保障・人口問題研究所の分析では福島県の2050年の推計人口は現在より50万人減少し、2040年には65歳以上の高齢者割合は人口の4割に達するとされています。若者が減りバスや鉄道、物流などのインフラにかかわる労働力も減少するため医療へのアクセスも問題となること予想されます。

県南地域における当院の役割は、県中や県北に移動せずとも、高度医療から在宅医療までできるだけ地域で完結させることと考えています。高度医療については1) 3次救急医療施設とネットワークを構築し輪番制の主軸として2次救急医療を充実させる、2) 新型PET-CT、高精度放射線治療装置、低侵襲外科手術、抗がん剤治療を軸とした集学的がん治療の提供、3) 急性心疾患、脳血管疾患に対する血管内治療による救命率の向上、4) 小児・周産期医療を充実させ安心して産み育てる地域となること、を目指します。在宅医療については2022年に開設した在宅療養支援診療所のスタッフが地域住民が自宅等で療養し、自分らしい生活が最期まで出来るよう福島県南医療圏の在宅医療に貢献していきます。

今後地域を取り巻く医療環境は厳しさを増していきますが、2023年11月にOut of KidZania in しらかわ 2023が開催され、たくさんの子供たちが職業体験に参加してくれました。当院は医療人の教育機関としてこれからも人材の育成に尽力して参ります。

これからも「地域を守り地域の皆様に愛される病院を目指します」という基本理念に基づき、地域住民の皆さんが安心して生活し、魅力ある地域として新しい世代にバトンタッチできるようよりよい医療の提供を目指してまいります。

白河厚生総合病院について

基本理念

地域を守り地域の皆様に
愛される病院を目指します

基本方針

- 私たちは
- 一、医療、保健、福祉事業を通して地域住民の健康を守り、豊かな暮らしに貢献します
 - 一、県南の中核病院として関係機関との連携を深め、地域医療の向上に努めます
 - 一、患者さんを全人的に理解し、優しさと思いやりをもって接します
 - 一、十分に説明をし、患者さんの意志を尊重した医療を実践します
 - 一、使命を自覚し、たゆまず研鑽を積んで医療の質の向上と人材の育成に努めます

医療連携 登録医療機関の紹介



医療法人社団慈泉会

南湖こころのクリニック

▷ クリニックの紹介

地域に根ざした医療を実践する精神科クリニックです。白河関辺の地に30年以上の歴史のあった精神科病院を、2004年に入院中心の医療から外来とデイケア中心の医療への転換を目指し誕生しました。わかりやすく、かかりやすい医療の提供を方針に、うつ病や双極性障害、認知症、子どもの発達障害等、臨床経験豊かな専門医が丁寧に診察いたします。そして、患者様一人ひとりの社会復帰を、医師やスタッフが寄り添い一丸となってサポートしています。



▷ 院長 本郷 誠司

みなさん、こんにちは。院長の本郷です。白河で仕事を始め、13年ほど経ちますが、その間に沢山の患者さんと出会って参りました。当院では頭部CTや脳波検査など、客観的な脳の検査にも力を入れております。また、精神科デイケア、カウンセリングなども行っております。皆さんのこころの健康の一助となりますよう、当院をご活用いただきますよう、よろしく願いいたします。

診療科目

精神科・心療内科・内科・神経科
うつ病などのこころの病から子供の発達障害、認知症まで、あらゆる年代に対応する「地域密着型クリニック」です。

●住所 / 〒961-0021 福島県白河市関辺引目橋 33
●TEL / 0248-23-4401 FAX / 0248-22-9632



こころに届く「やさしい医療」を目指して

診療日時

月曜日	9:30-13:00, 14:00-17:30
火曜日	9:00-12:00, 14:00-16:30
水曜日	9:00-12:00, 14:00-17:30
木曜日	9:00-12:00, 14:00-17:30
金曜日	9:00-12:00, 14:00-18:00

PET-CT がん検診啓蒙活動

看護師 **小澤 里沙**

10月28日(土)、11月3日(日)にJA夢みなみにて開催されたJAまつりに参加し、健康相談及びPET-CTがん検診の啓蒙活動を行いました。多くの地域住民の方が参加されて、健康相談や骨密度測定を行い、多くの地域住民の方と交流ができました。



生活を楽しむ道具 “自助具”のご紹介

リハビリテーション科 作業療法士 村社 和紀

自助具とは

リハビリテーション科では、リハビリの一環として様々な道具の提供、調整をすることがあります。その道具の中に“自助具”と呼ばれる種類の道具があります。

病気や怪我によって手足が不自由になると、箸で食事をしたり、くしで髪を整えるなど身の回りのことが難しくなったり、時間がかかるようになることがあります。そんなとき自分で、容易に行えるように工夫された道具、それが自助具です。



ペンを握れない方が字を書くための自助具



手に固定して使用するスプーン



自助具は福祉用具販売店などで既製品として販売しているものもあれば、簡単に手作りできるものもあります。障がいの程度や状態によっては一人一人に適した自助具を選び、制作や調整する事が必要な場合もあります。例えば同じ形状のスプーンでも筋力が弱い方には、素材を検討したり、握りやすい柄を付けるなど工夫をします。

リハビリテーション科作業療法部門では、障がいの程度や状態に応じた自助具の提案や作成をし、自助具を使った練習をすることで、よりよい日常生活を送れるよう支援しています。



在宅生活を支えるケアの専門家たち

白河厚生総合病院 総合診療科 相田 雅司

当院では、病院に通院することが難しくなった方へ訪問診療を行っています。訪問診療では、医師の訪問だけでなくさまざまな医療スタッフのサポートを受けることができます。今回は、通院や外出が難しくなった方がご自宅でケアを受けることができるよう協力して働いている専門家たちをご紹介しますと思います。

訪問看護師

日頃の体調の相談やアドバイス
お風呂介助やオムツ交換など体のケア
床ずれやカテーテルの管理など看護処置
急病時の相談窓口として医師と連携します

訪問診療医師

定期的な診察や検査、お薬の処方
急病時の往診
詳しい検査や入院が必要な場合は
病院へ紹介します

ホームヘルパー、 介護福祉士

買い物や料理、掃除
食事や排泄介助などの体のケア

訪問薬剤師

ご自宅へのお薬の配達
薬の効果や副作用の説明
体調や残った薬の状況の確認

訪問リハビリ

日常生活の動作訓練
介助のしかたのアドバイス
福祉用具、住宅改修のアドバイス

ケアマネージャー、 社会福祉士

在宅ケア全般の相談役
利用するサービスのプランを考えます
他の専門家たちの調整

訪問歯科

虫歯や歯周病などの治療やお口のケア
入れ歯の作成や修理
飲み込み力の低下の評価、リハビリ

利用される方の状況や、地域の医療資源によって利用できるサービスが変わります。これらのケアに関してご相談したい方は、ケアマネージャーやかかりつけ医にご相談ください。

健康減塩メニューより ハニーマスタードチキン



ヘルシーな鶏むね肉を使ったハニーマスタードチキン。マスタードの爽やかな辛味と酸味と塩味、蜂蜜の甘みを加えたソースで減塩を感じさせない一品です。

材料2人分 (1人分の食塩相当量 0.9g)

- | | |
|-----------------|-------------------|
| ○鶏むね肉 …… 80g×2枚 | 〈ソース2人分〉 |
| ○塩 …… 少々 (0.1g) | ○はちみつ …… 大さじ1 |
| ○こしょう …… 少々 | ○粒入りマスタード …… 大さじ1 |
| ○小麦粉 …… 適量 | ○醤油 …… 小さじ1 |
| ○油 …… 適量 | ○水 …… 小さじ2 |



作り方

- ①鶏むね肉は一口大に切り、軽く塩・こしょうを振り、全体に小麦粉をまぶす。
- ②熱したフライパンに油を敷いて鶏むね肉をいれふたをして弱火で両面を焼く。
- ③ソースを混ぜ合わせる。
- ④火が通った鶏むね肉にソースを絡めて仕上げる。

※むね肉は焼きすぎると水分が抜けて固くなるので注意する。

献立作成・監修 管理栄養士 今本 美幸 先生

鶏むね肉は低カロリー、低脂肪、高たんぱくで、さらにビタミン・ミネラルが豊富な優れた食材です。味にクセがないので、和食でも中華でも相性抜群!今回は洋食に仕上げました。



白河厚生総合病院 8F **レストラン そら** ☎ご予約お電話番号 0248-22-2211 内線 2850

医療安全推進週間

医療安全管理者 矢吹 明美

厚生労働省では、「患者の安全を守る」ことを中心とした総合的な医療安全を推進するため、11月25日を含む1週間を「医療安全週間」と定めています。当院では、11月21日～11月24日の4日間を医療安全週間とし、病院正面玄関ホールにおいて1.「オムツと転倒予防」と題し、適切なオムツの選び方の説明や展示、2.感染防止対策の紹介(手洗いの動画上映・ポスター展示)、3.多職種による安全に関する情報の展示を行いました。患者さんやご家族の方々にお寄り頂き、思いや悩みを聞かせていただく機会となり、私たちの学びの場ともなりました。今後も地域の方々に寄り添いながら、安全な医療の提供と生活の援助ができるように努めていきたいと思ひます。



NEWS 01

令和5年度 継灯式

専任教員 芳賀 洋平

令和5年10月28日(土)、白河厚生総合病院付属高等看護学院で第63回生31名の継灯式を開催しました。JA福島厚生連高久忠代表理事理事長をはじめ、病院関係者と保護者、そして4年ぶりに在校生も参加して1年生を祝福しました。式典では、前原和平学院長が「看護の灯を受け継ぎ、看護の道への新たな思いと覚悟を心に刻んで欲しい」とあいさつされました。1年生は、看護師になるという決意を胸に式典に臨み参加者に見守られる中、ナイチンゲール像から灯を一人ひとり蠟燭に受けとり、厳かに灯火の継承が行われました。全員で息を合わせ唱えたナイチンゲール誓詞はとて力強く、看護の道を進んでいく決意が伝わりました。1年生を代表して芳賀愛里さんが「同じ目標を持つ仲間と共に、日々の努力を惜しむことなく学びを深めていきます」とお礼の言葉を述べました。自らを律しながら、受け継いだ灯を絶やさず、それぞれが目指す看護師像に向かって成長していけるよう看護師への第一歩を踏み出しました。皆様のあたたかいご指導ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



NEWS 02

第15回白河厚生総合病院解剖慰霊祭

病理センター長 野沢 佳弘

令和5年11月11日(土)あおき白河斎苑にて、第15回白河厚生総合病院解剖慰霊祭がしめやかに執り行われました。ご遺族、医師、看護師等の職員が多数参列し、医学の発展のため、ご遺体を本院における解剖に献体された故人の御霊に対し、ご冥福をお祈りいたしました。出席者全員で御霊に黙祷を捧げ、大木進司院長の追悼の辞に引き続き、研修医代表の佐々木祥医師が感謝の言葉を捧げました。その後、参列者全員により献花が行われました。



NEWS 03

医療安全・個人情報保護研修会

看護師長 芳賀 弘子

私達、医療従事者はミスが許されないなかで、事故を「起こさない」「起こさせない」ことを日々思いながら業務を行っています。今回、医療安全・個人情報保護に関する研修会を11月に計3回開催しました。研修では医療事故に係る法的責任と対応上の留意点について実際にあった事例を交えながら講師よりご説明いただきました。また、個人情報においては氏名、電話番号など単体の情報だけでは個人特定はできませんが、情報が集約されることで個人は特定されてしまいます。研修では個人情報保護とは、医療現場における情報漏洩とは何なのかを事例や法令を提示しながらご説明いただき、職員の知識向上に大変役立つことができました。

NEWS 04

院内感染対策研修会

感染管理専従看護師 蛭田 好郁

院内感染対策委員会では、年に2回全職員を対象とし院内感染対策研修会を開催しています。令和5年度はICTメンバーが講師を務め、1回目は「感染対策の基本について」と題し、新型コロナウイルスの5類移行に伴う対応の変化などについて、2回目は全世界で問題となっている「薬剤耐性 (AMR) 対策」について、厚生労働省の定める抗微生物薬適正使用の手引きをもとに研修を実施しました。感染対策についてなるべく興味を持っていただけるよう、その時期の特色あるテーマを取り入れながら開催しています。今後も、職員全体の感染対策についての知識の共有が図れるよう実施していきたいと考えています。

NEWS

05

看護部文化祭

看護師長 坂本 紅美子

令和5年11月20日(月)から24日(金)にかけて、看護部文化祭を開催しました。看護部文化祭は、令和元年以降コロナ感染症の流行により中止を余儀なくされておりましたが、感染症の5類移行に伴い4年ぶりに開催することができました。

例年、地域の皆様との交流を深める主旨のもと、バザーや講演、看護師が作成した作品展示を行ってきましたが、感染状況を鑑みて本年度は作品展示と当院の認定看護師紹介を行いました。展示物は受診の合間にご覧頂ければと考え、外来の通路に設置しました。多くの方が足を止め鑑賞されておりました。今後も地域の皆様との交流を深めるため、看護部文化祭を開催していきたいと考えております。



NEWS

06

アウトオブキツザニアinしらかわ2023

看護学院 坂本 真理

将来を担う小・中学生を対象に、地元産業・経済を支える職業・社会体験を実施することにより、地元企業の理解や地元愛の醸成を図り、将来を担う人材の確保に繋げる目的で、11月25日(土)・26日(日)に看護学院を会場に「医師の仕事」と「助産師の仕事」の職業体験を行いました。医師の仕事では、バイタルサイン測定、聴診、超音波検査から、診察結果をもとに薬の処方を行いました。助産師の仕事では、手洗いから始まり、新生児の抱っこ、おむつ交換、沐浴を通じて、新生児看護を体験しました。元気いっぱいな子ども達の姿が見られ、どの子も真剣に取り組み振り返りでは体験を通じて、いのちを守る仕事であることを実感したとの声も聞かれました。今後、子ども達が自分自身のいのちを大切にしながら、家族やお友達のいのちを大切にできる人に成長して欲しいと願うと同時に、将来、医療職として一緒に働ける日が来るといいなと感じています。

